

7、8月の需要期出荷に適応できる小ギク  
「常陸サマーライト」、「常陸サマールージュ」、「常陸サマーシルキー」

農業総合センター生物工学研究所

【研究の概要】

茨城県の小ギク生産現場では、7月東京盆、8月旧盆、9月秋彼岸のそれぞれの需要期出荷に対応するために、非常に多くの品種を栽培している状況にあります。そこで、管理作業の効率化や省力化を図るため、今回7月、8月の需要期出荷に対する県育成品種の複数作型適応性について検討しました。

【研究内容】

8月旧盆出荷向けとして育成した「常陸サマーライト」（黄色）、「常陸サマールージュ」（赤色）、「常陸サマーシルキー」（白色）の3品種について、7月東京盆出荷向け作型での適応性を検討しました。



「常陸サマーライト」

【研究成果】

小ギク「常陸サマーライト」、「常陸サマールージュ」、「常陸サマーシルキー」は、7月東京盆出荷向け作型（3月下旬定植）において、おおむね6月下旬から7月上旬に開花し、切花長は100 cm以上となり、高い切花品質を確保できました（平成28～30年の3年）。

このことから、これら3品種は7、8月の複数の需要期出荷に適応できることを明らかにしました。



「常陸サマールージュ」

【将来の展望】

「常陸サマーライト」、「常陸サマールージュ」、「常陸サマーシルキー」の3品種は、7月作型と8月作型の両方で作付けすることにより、東京盆と旧盆の複数の需要期出荷に利用でき、これにより、栽培品種数を削減し、管理作業の効率化や省力化を図ることができます。



「常陸サマーシルキー」